

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部 発行：会長 田中勇次郎

7月2日に再会し
語り合きましょう！

はじめに、皆様におかれましては、東京都作業療法士会の活動へのご理解ご協力、ご参加を承り誠にありがとうございます。今年度も引き続き宜しくお願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症も5月より5類となり、皆様がこの記事を読む頃には「コロナウイルス感染症2019」と名称も変更となっているでしょう。屋外でのノーマスク姿も、普通にみられるようになってきたと思います。ただ、私たちは医療・福祉関係の従事者や、重症化リスク対象者に対応している方が多いので、今まで通りの感染対策を求められていると思います。感染対策により様々な制約を強いられた3年間で、世界中の人々が様々な工夫をして世の中を回してきました。当会でも同様、職能団体としての責任を果たすために、それまでの「あたりまえ」とらわれることなく柔軟な対応をしてきました。その中でも大きな変化は、会議や研修会のリモート開催だと思います。皆さんは、Zoom等によるリモートを活用する中で、リモートによる便利さ、不便さの両方を感じていると思います。今後さらに、対面での交流が増えると思われませんが、リモートの便利さを活用することは継続する必要があります。ご家庭の都合等で自宅を空けられない方や、移動時間の関係で会議や研修会に参加できない方がそれらに参加できることや、日本各地、または海外



福祉用具部・
市部ブロック担当理事
所属施設：大久野病院
粟沢 広之

に住む方とも、気兼ねなくリモート会議ができるようになったのは、今回の制約がきっかけになった「便利さ」の一つです。

そしてこれは、心身に障害を持った方にとっても通じるものがあります。ICT機器を利用したりリモートでの活動・コミュニケーションにより、障害を持つ方の社会参加を阻害する距離や移動手段の制約を取り除くことも可能ということが、当事者やその関係者、支援者も実感できた方が多いと思います。これからは、ICT機器を普通に活用している方が高齢者となりますので、高齢者支援としてのICT機器の活用や操作の工夫も、作業療法士として必要なスキルとなるでしょう。

私自身もリモートによる便利さを身をもって知りました。一方、直接目を見て話をして、触れ合い、笑いあえ、意見を交わせる大切さも改めて知りました。今年度の東京都作業療法学会は4年振りの対面での開催となります。現在、区中央部・南部・島しょ部ブロックのメンバーが中心の実行委員会により準備を進めています。テーマは「Face to Face 作業で結ぶ東京の未来」です。感染対策をしつつ、久しぶりに集い語り合きましょう。

CONTENTS

- ◆7月2日に再会し語り合しましょう！…①
- ◆第19回東京都作業療法学会について…②
- ◆保険Letter～疾患別リハビリテーション料と標準的算定日数…③
- ◆生涯教育制度について…④
- ◆教育部からの案内…④
- ◆子ども委員会活動報告…⑤
- ◆地域づくり人材育成研修「基礎編オンデマンド配信」および「実践基礎編開催」のご案内…⑤
- ◆認知症の人と家族の生活支援委員会 活動報告…⑥
- ◆認知症にやさしい本の紹介 VOL.38…⑥
- ◆東京都作業療法士会福祉用具部主催「生活行為工夫情報事業を活用した説明会」オンデマンド配信のご案内…⑦
- ◆東京都作業療法士会福祉用具部主催
《福祉用具部研修会のご案内》…⑦
- ◆自動車運転と移動支援対策委員会 活動報告…⑧
- ◆就労支援委員会 2022年度の活動報告、および2023年度の事業計画について…⑧
- ◆都士会の災害支援における人材育成
～第14回 JIMTEF災害医療研修アドバンスコースへの参加～…⑨
- ◆ブロック活動のお知らせ…⑩
- ◆事業部活動報告…⑫
- ◆編集後記…⑫

第19回東京都作業療法学会について

東京都作業療法学会実行委員会 広報担当 NTT東日本関東病院 森田 将健

皆様、いよいよ第19回東京都作業療法学会が目前となってきています。7月2日(日)が開催日なので、都士会ニュースで広報をするのも今回が最後となります。

原稿を書いている現在(4月初旬)ではまだ詳細が決まっていないこともありますが、前回のご報告から新たに決まっている事だけでもここでご紹介させていただきます。

企画・・・

- ・特別講演では、東京工科大学の澤田辰徳先生に「作業で結ぶ東京の未来」「意味のある作業とは？」など、作業をキーワードとした講演をお願いしています」
- ・イチロウ株式会社の細川寛将先生による「OTのキャリアデザイン」のセミナーや、一般社団法人ICTリハビリテーション研究会の林園子先生、上原亮介先生による「3Dプリンター」のワークショップなどの企画が決定しています。

コロナ禍において生活様式が変わったことで、世の中のICT化が進み、AIの急速な進化に合わせ日常生活活動や動作も今後大きく変化していくことが予想されます。世の中の生活様式に私たち作業療法士がついていけなくなるのではないかと個人的に危惧しています。そんな中で今回の企画はとても魅力的に感じていますので、皆さんもぜひご参加を検討して下さい。特に3年目以内の若手OTの方々は対面での学会は初となる方も多くいらっしゃると思います。近隣のOTがどんな事を考えているのか、実践しているのかを直接目にする機会となるのでぜひご参加ください。わからない事もどんどん質問してください。都内のいろいろな年代のOTが集まる機会ですので、少しでも刺激を受け、患者様の手助けになる一助となれば、今回の学会は大成功だと考えます。

都士会ニュースが配布されるころには、公募企画も決まっている可能性が高いと思います。新たな情報や事前参加登録なども都学会HP上で行っているのので、ぜひ都学会HPを訪れてみてください。事前参加は4月15日より受け付けております。ホームページもポスターもトップ画像もOTが業者に頼らず作り上げています。改めて、作業療法士っていろんな経験を持っていて、いろんな趣味を持っていて、いろんな技能を持っている人がたくさんいるんだなあ実感しています。皆さんもその中の一人だと思います。今回の学会で皆さんにもいろいろな刺激をたくさん受け、たくさん刺激を与えていただきたいと思います。それでは皆様、実行委員共ども学会場でお待ちしております。

第19回東京都作業療法学会HP

<https://sites.google.com/view/tokyo-ot-congress19>

(左) 都学会 HP QRコード



(右) 事前参加登録用 QRコード



保険Letter

～疾患別リハビリテーション料と標準的算定日数～

保険部担当理事 松岡 耕史

新年度が始まり、それぞれの病院・施設で新たにOTとして働き始めた方達も多いと思います。今回のニュースでは、私達OTが患者様へ提供するリハビリテーション（リハ）の制度に関して、疾患別リハ料と標準的算定日数について基本的な内容を掲載致します。患者様と関わる時間の大切さを考えるきっかけにいただけたらと思います。

【疾患別リハ料と標準的算定日数】

	脳血管	運動器	廃用	心大血管	呼吸器
標準的算定日数	180日	150日	120日	150日	90日
施設基準Ⅰ	245点	185点	180点	205点	175点
施設基準Ⅱ	200点	170点	146点	125点	85点
施設基準Ⅲ	100点	85点	77点	—	—

＜回復期リハ病棟における算定上限日数＞
 脳血管疾患等：150日
 高次脳機能障害を伴った脳血管疾患等：180日
 大腿骨の骨折等：90日
 廃用症候群：90日

脳血管疾患では、起算日から180日は1日6単位のリハを提供できます。さらに、回復期リハ病棟へ入棟した日から150日は1日9単位までリハを提供することができ、高次脳機能障害を伴っている場合は、入棟日から180日、1日9単位のリハを提供できます。

＜疾患別リハ料：施設基準Ⅰの場合＞

脳血管疾患：1単位245点⇒3単位で735点＝60分間のOTで7,350円

※回復期リハ病棟では、1日9単位まで算定可能⇒9単位×245点＝2,205点＝1日22,050円

実際に患者様が支払う金額は様々な制度（後期高齢者、高額医療費等）により異なりますが、これだけの金額が動いていることを意識しながらリハを提供する必要があります。

生涯教育制度について

東京都作業療法士会教育部 部長 菊池 大典

日本作業療法士協会では作業療法士の学術的研鑽を支援するために、生涯教育制度を設定しています。本制度は基礎研修制度、認定作業療法士制度、専門作業療法士制度に分けられ、本稿では新人作業療法士が最初に取り組むことになる、基礎研修制度について解説します。

基礎研修制度は「現職者研修」と「自由選択研修」から成ります。現職者研修はさらに、共通研修と選択研修に分けられ、具体的には「現職者共通研修」「現職者選択研修（身体障害領域、精神障害領域、老年期領域、発達障害領域、MTDLP）」として開催されます。また、2020年度から「臨床実習指導者講習会」が基礎研修終了後の初回更新時まで受講が必須となる更新必修研修として位置づけられております。臨床実習指導者講習会については、教育部での企画運営について計画中でございます。開催が決まりましたらホームページ等でご案内致します。

現職者共通研修は全10講座（各90分）で構成され、具体的な内訳は座学となる8講座と、発表とグループディスカッションの2講座となっています。事例報告の講座はクライアントからの同意と、その証左である同意書の提出が必須となっておりますので、詳細は募集時の要項をご確認下さい。全科目の受講により修了となり、基礎研修ポイント（20ポイント）が付与されます。

現職者選択研修は必修講座であるMTDLPに加え、任意の1講座（身体障害、精神障害、老年期障害、発達障害）を受講することで修了となります。会員が従事している領域の講座を受講する場合がありますが、他領域の知見や最新の動向を得る観点から、2講座以上の受講も期待しております。現職者選択研修は土曜日及び日曜日の開催で、各講座いずれも4科目（各90分）で構成されています。1講座を受講する度に、基礎研修ポイント（2ポイント）が付与されます。

現職者研修シリーズは東京都作業療法士会が日本作業療法士協会からの委託を受けて、開催する形式となります。受講における要件等については、日本作業療法士協会の規則に則って頂くことになります。

自由選択研修は東京都作業療法士会教育部の裁量によって、内容を自由に設定できる研修となっております。昨年度は身体障害領域における急性期・回復期・生活期の事例報告、精神障害領域におけるアルコール依存症支援、発達障害領域における読み書きが困難な子供の支援に関する研修会を開催しました。本研修も基礎ポイント（2ポイント）が付与されますが、選択研修とは異なり受講は任意となっております。しかしながら、自己研鑽や、50ポイントの蓄積の為に、積極的な受講をお願いします。

上記の研修は、いずれも東京都作業療法士会教育部が企画と運営を行っております。2023年度も新型コロナウイルス感染予防の観点から、Zoomによる遠隔形式での開催となる見込みです。研修会へのご参加を、お待ちしております。

教育部からの案内

現職者共通研修～2023年度の予定～

- ①事例報告・事例検討：2023年6月、12月、3月頃 計3回開催予定
- ②作業療法生涯教育概論：2023年7月～8月頃を予定
- ③その他：2023年10月～11月頃を予定

※詳細が決まり次第、東京都作業療法士会HP「研修案内」に掲載いたします。

老年期 基礎ポイント研修「老年期・地域領域におけるリスク管理」

日時：令和5年7月23日 9：30～12：40（途中休憩あり）

内容：リスク管理の概要、実践

講師：汐田リハビリテーション病院 理学療法士 村上貴史先生

申込み開始：5月上旬～

※詳しくは東京都作業療法士会HP「研修案内」をご確認ください。

子ども委員会活動報告

子ども委員会 松永優佳子

子ども委員会では、2023年3月5日、『発達OTの多様な職場・働き方』と題して、オンラインによる研修会を実施いたしました。発達障がい領域では、運動・日常生活活動・学習・社会性など、様々な“作業”に対して困難さを抱えるお子さんを対象としており、作業療法が求められる場も多岐に渡ります。教育・医療・福祉といった分野との連携した支援のニーズも高まっています。そのため近年では、発達障がい領域で働く作業療法士の職場やその働き方も多様になってきています。今回は、『施設・病院でのOT』『支援学校に関わるOT』『民間企業でのOT』『フリーランスでの仕事』と4つの演題に分けて、それぞれの職場で行なっていることや働き方として大事にしていることなどを、事例を交えてお伝えしました。実施後のアンケートでは、「子どもに関わる様々な働き方を知ることができた」と、参加した現職の作業療法士や学生から感想をいただきました。また、働き方の選択肢としてとても参考になったという学生からの声もあり、改めて、日々の実践を発信する機会の大切さを感じました。一方で、「もっと具体的な内容も知りたい」「ディスカッション等で繋がりを作りたい」「異なる職場でも作業療法士として共通していることや、求められる専門性についても知りたい」といったご意見もありました。それぞれの現場での経験を互いに共有し、作業療法とその働き方を深めていけるような研修会を今後も企画していきます。今年度も、学会での企画や委員会主催の研修会等を計画しておりますので、ぜひご参加ください。

地域づくり人材育成研修「基礎編オンデマンド配信」 および「実践基礎編開催」のご案内

地域包括ケア対策委員会 山中 信

地域包括ケア対策委員会では「東京都内全域で地域における作業療法実践を推進する～作業療法士が自信と誇りをもって地域での作業療法を展開できる～」という目標のもと、地域づくり人材育成事業をスタートしました。2月4日に実施した「基礎編」では、オンラインで79名の方にご参加いただき、受講免除者を合わせて127名の「地域づくりサポーター」が誕生しました。本研修についてはアンケートにて様々な意見をいただいております。この度、基礎編のオンデマンド配信をすることとなりました。本研修は地域包括ケアに携わる作業療法士の在り方や今後の展望など「地域で活躍するためのヒント」が詰まった内容となっております。地域での活動に少しでもご興味のある方、既に地域支援に携わっていてさらに知見を深めたい方、オンライン受講ができなかった方など、ぜひ受講をご検討ください。なお、配信期間は5月19日（金）より、月に連続10日間、6か月間連続の期間限定で配信する予定です。

また、基礎編のステップアップとして実践基礎編を8月頃の開催を目安に予定しております。この研修では「地域に必要な医学的知識」や「地域リハビリテーションの実際」など、地域に携わるうえで必要な知識や実際行われている取り組みを学ぶ内容を予定しております。本研修の対象者は、基礎編の修了者または受講免除者で「地域づくりサポーター」と認定されている作業療法士としています。地域支援に向けスキルアップとなる内容だと思いますので、皆さまのご参加をお待ちいたしております。

認知症の人と家族の生活支援委員会 活動報告

認知症の人と家族の生活支援委員会委員 田中ゆい子

当委員会では、今年度の事業計画として、様々な企画を予定しています。定期的な会議の中での情報交換に合わせて、毎年実施している認知症アップデート研修の開催。東京都作業療法士学会や看護フェスタへの参加。委員会主催の認知症関連の研修会。月1回配信している都民向けブログの運営。SNS（Twitter, Facebook）での委員会情報発信。都民向けパンフレットの作成。認知症関連団体との会議や講習会への参加。委員会内での勉強会。認知症に関わる作業療法士の実態調査では、内容を検討し集計と分析を行う予定となっています。また、昨年度から東京新聞ヘルスケアメイツ事業に委員会として関わらせていただいています。内容としては、東京新聞が企画する地域介護予防のサポートとファシリテーター育成、介護予防における作業療法部門の内容の策定、策定した企画運営の地域住民の育成を目指しています。今年度は5月に開催を予定しており、新聞を使用した回想法プログラムのお手伝いをさせていただきます。

コロナ禍で都民の皆さまとの繋がりが希薄となってしまっている今、今年度は大きく変化の年になるのではと感じています。本来の目的である作業療法士としてのサポートの再構築ができるよう進めていきたいと思っています。委員同士の交流も積極的に行い、活動の幅も広げていきたいです。

認知症にやさしい本の紹介 VOL.38

川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

認知症バリアフリー社会実現のための手引き—図書館編

制作・発行・編集/日本認知症官民協議会認知症バリアフリーワーキンググループ

2019年に認知症施策推進大綱が取りまとめられ、「認知症バリアフリー」という言葉を知った。調べると「認知症になってからもできる限り住み慣れた地域で普通に暮らし続けていくための障壁を減らすこと」とある。この理念に基づき官民が協力し、各業界が認知症バリアフリー社会実現を普及するため手引きをこの協議会が作成してきた。図書館編は昨年度、私が所属する公益社団法人日本図書館協会認知症バリアフリー図書館特別検討チームという組織が中心となり、手引きを作成した。我々、図書館としてバリアフリー社会実現に向け、できることは何か、そして、図書館員が地域や各館の状況に応じ、利用者サービスへ積極的に取り組むための参考になる内容構成でまとめることを目指した。特に図書館として目指すことは、①なじみのある居場所。②本などに触れる喜びを味わえる。③認知症について知り、学べる。④わかりやすい表記などに工夫する。⑤図書館で地域とつながり、人が交わる。以上の項目を「認知症=ネガティブ」な事例の紹介ではなく、認知症当事者の人やその家族の方の協力も得て、図書館に行くこと前向きになれる点に配慮し作成した。様々な専門機関と連携し、各業界の中で図書館も取り組んでいることを冊子を通して、知っていただきたい。

日本認知症官民協議会「手引き・図書館編」：<https://ninchisho-kanmin.or.jp/guidance.html>



東京都作業療法士会福祉用具部主催 「生活行為工夫情報事業を活用した説明会」 オンディマンド配信のご案内

都士会ニュース3月号にて案内しましたが、申込先のメールアドレスが掲載されていませんでした。申し訳ございませんでした。修正したものを再掲載いたします。

☆オンディマンド視聴希望の方（OT協会員かつ都士会員に限ります）

下記メールアドレスに件名を「動画視聴希望」とし、①～③を記入して送ってください。

tokyo.ot.yougu@gmail.com

事務局にて会員情報を確認した後、視聴するためのURLとパスワードを送ります。返信まで数日かかる場合がありますのでご了承願います。

※視聴は、6月30日まで可能です。

- ①協会番号
- ②氏名（協会に登録してある氏名）
- ③メールアドレス（gmail.comを受信できるようにしてください）

東京都作業療法士会福祉用具部主催 《福祉用具部研修会のご案内》

新型コロナウイルス感染症のため開催を見合わせていました。3年ぶりの開催となります。

IT機器レンタル事業対象研修会 IT機器を活用した作業療法支援

☆対象：日本作業療法士会会員かつ、東京都作業療法士会の会員、または他県の士会の会員

☆参加費：2,000円（スイッチ作製費含む）

☆開催日時：2023年6月17日（土）9：30～15：30予定（受付9：15～）

☆OT協会基礎ポイント：2ポイント付与

☆場所：東京都立大学 荒川キャンパス

☆定員：30名（先着順）

☆内容：・IT機器レンタル事業説明および、機器の適合と事例紹介（田中勇次郎氏）
・意思伝達装置等レンタル機器等の紹介、体験、
・Microsoftアクセシビリティ、スイッチ作製（予定：変更の可能性もあります）

☆申し込み：イベントペイ 下記URLまたはQRコードから

URL：https://eventpay.jp/event_info/?shop_code=5238587945919649&EventCode=P534936650

☆申込締切：2023年6月10日（土）

※当研修会に参加することにより、OT協会のIT機器レンタル事業を利用して、意思伝達装置や入力スイッチ等をレンタルすることができます！

問い合わせ先：tokyo.ot.yougu@gmail.com



自動車運転と移動支援対策委員会 活動報告

自動車運転と移動支援対策委員会委員 社会医療法人一成会木村病院 井上 俊輔

3月11日に、東京都作業療法士会福祉用具部と八広はなみずき高齢者支援総合センターのご協力のもと、研修会「地域から世界一周まで！～車いすを通して考える地域の移動とは～」を開催しました。

今回の研修会は、講演と車いす試乗体験の二部構成で行いました。講演では、頸髄損傷後に車いすで世界一周をした車いすトラベラーの三代達也様に、どのような経緯で世界一周に至ったのか、世界のバリアフリー事情等についてご講演いただきました。また、脳梗塞後に電動車いすを利用している渡邊康次様に、地域の移動やトラベルヘルパーとの旅行についてお話しいただきました。対象者の持つ可能性を広げていくためにも、身近なことから世界に至るまで幅広い視点を持つ必要性を感じました。車いす試乗体験では、福祉用具業者にスマートドライブや目線で姿勢変換ができる車いす等を準備して頂き、説明を受けながら試乗を行いました。機能やこだわりを聞くことで分かりやすかったのはもちろんですが、対象者のできることを増やしたいという各社の熱意を肌で感じたことが印象的でした。

本研修会では、福祉用具部と協力して、電動車いすメーカー4社にも参加頂き、説明動画を制作しております。動画は都士会会員限定で配信いたします。

以下の要領で連絡をしていただき、会員情報を確認後、動画配信ページURLおよびパスワードをお送りします。確認作業の関係で、1週間ほど時間をいただく場合もありますのでご了承ください。是非、ご覧ください。

宛 先：tokyo.ot.yougu@gmail.com

件 名：「電動車いす動画視聴希望」

①会員番号（OT協会） ②氏名（OT協会に登録している氏名）

就労支援委員会 2022年度の活動報告、 および2023年度の事業計画について

就労支援委員会 齊藤 陽子

昨年度就労支援委員会では、「第18回東京都作業療法学会への参加」や、「就労支援委員会主催の研修会」、更に、「オンライン事例検討会」などを開催しました。参加して頂いた会員の皆様にとって、少しでもお役に立てていれば嬉しいです。

今年度も引き続き、「第19回東京都作業療法学会への参加」や、「就労支援委員会主催の研修会」、「オンライン事例検討会」を開催する予定です。更に、「就労支援に関する情報を整理した冊子の作成・配布」や、「アンケート調査」などにもチャレンジする予定です。

引き続き、就労支援について、会員の皆様と一緒に学び、情報共有ができる機会をつくっていきたいと考えています。

今年度も開催します！「就労支援委員会主催 オンライン事例検討会」

【日 時】：①8月9日（水）②10月6日（金）③12月8日（金） *いずれの日程も19：00～20：30

【定 員】：聴講：10名

【対 象】：東京都作業療法士会 会員

【参 加 費】：無料

【申込方法】：「東京都作業療法士会ホームページ 講演会・研修会・学会情報」よりお申し込み下さい。

※当日は、就労支援委員会メンバーが事例を挙げ、就労支援委員会メンバー同士が支援方法などについて検討を進めていきます。参加者の方には、委員同士の事例検討をお聞き頂きながら、就労支援の実際を感じて頂きたいと思っております。

さらに、事例検討終了後には、「質問コーナー」を設けており、日々の支援で困っていることについて、一緒に考える時間も予定しています。

ご興味のある方は、是非、お気軽にご参加下さい！

都士会の災害支援における人材育成 ～第14回 JIMTEF災害医療研修アドバンスコースへの参加～

保険部 永吉 隆生

発災時、東京都は二次保健医療圏ごとに指定している12圏域の地域リハ支援センターを拠点に本部運営を行い、円滑に支援ができるよう体制を整えている。都士会はOT協会やJRAT（災害リハ支援協会）と協力して災害リハ支援を行う。災害リハ支援の拠点となるJRAT対策本部の運営要員の要件として、災害研修の受講を設けている。そのため、都士会では発災時にJRAT災害対策本部で活動できる都士会員の人材育成として、研修参加を勧めており、今回JIMTEF災害医療研修へ参加したため報告する。

JIMTEF災害医療研修について

公益財団法人 国際医療技術財団（JIMTEF）主催の災害医療研修はベーシックコースとアドバンスコースの2種類に分かれている。ベーシックコースでは、災害の原因や環境問題に関する社会背景から発災時の支援フェーズまで、災害の全体像がつかめる構成となっている。ベーシックコースの参加者は、修了後にアドバンスコースへの参加資格が得られ、実際の現地支援を想定した実技や本部運営に関わる実践的な研修を受けることができる。

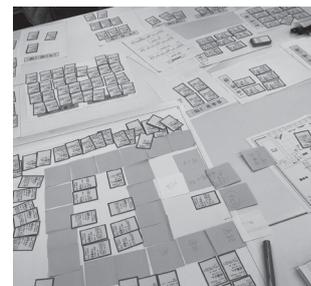
第14回 JIMTEF災害医療研修アドバンスコース

開催日：2023年3月17日 - 2023年3月18日

参加職種：作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、公認心理師、臨床心理士、臨床衛生検査技師、柔道整復師、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師、医師、薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカー

研修プログラム

- 演習1：発災から急性期の対応
- 演習2：避難所運営ゲーム（HUG）
- 演習3：避難所・地域アセスメント
- 演習4：災害食の実際 デモンストレーション
- 演習5：本部運営実習
- 演習6：災害食の実際 試食
- 演習7：本部運営実習



< HUGの様子 >

<HUG>

避難所運営をみんなで考えるためのひとつのアプローチ。避難者の年齢、性別、国籍などそれぞれが抱える事情が書かれたカードを避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるのか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを疑似体験するゲーム。

研修内容

本研修では、南海トラフ地震発災時に想定される問題や解決方法、被災地への移動経路、活動場所、宿泊先の選定に関するディスカッションを行なった。また、HUGを用いた避難所運営のシミュレーションは、全国各地から集結した多職種チームで行ったため多彩な視点で学びが得られ、実践的で有意義な意見交換ができた。研修で得られた全国のネットワークを活かし、実際の発災時に本部運営や現地支援が円滑にできるよう引き続き連携を強化していく。

ブロック活動のお知らせ

西部西南部ブロック

渋谷区担当 石川 未来

OT1年目～4年目の皆様へ。

今年度新人OTとして入職された方、またコロナ渦以降社会人になられた若手OTの方は、楽しい学生時代の思い出も作られたと思いますが、コロナによって犠牲にしてきたことも沢山あったことでしょう。しかしコロナ渦を乗り越え、国家試験に合格されたことは本当に素晴らしいことだと思います。そんな皆様は、私たちが新人だった頃とは違った心配や不安もあるのではないのでしょうか。西部西南部ブロックでは、そんな心配や不安、悩み事を解決するお手伝いが出来ないか検討中です！

ただ悩みを聞いてほしい、相談に乗ってほしい、こんな研修や集いを開いてほしい等要望があれば、お気軽に西部西南部ブロックへご連絡ください。様々な分野で活躍している経験豊富な先輩方が聞いてくれます！もちろんこのような活動に参画してみたい、経験してみたい、という方も大歓迎です。いつでもご連絡ください。
(seibuseinanbu.ot@gmail.com)

区西北部ブロック

橋本 奈実

2022年4月より区西北部ブロックと広報部に所属しております、橋本と申します。OT経験2年目で参加したMTDLP研修を機にお声がけいただき活動が始まりました。当初はこれだけ経験も浅い自分がお邪魔して良いのかと不安でした。しかし、こんなに楽しく有意義な会議があるのか、とカルチャーショックを受けるほど皆さん優しく面白く、活動への前向きな姿勢にはとても良い刺激をいただいています。入って良かったです。

私事ですが、これまでは維持期・終末期の高齢者を中心に、入院・通所・外来・訪問と幅広いリハビリに携わってきました。今年の4月からは新しく場を絞り、東京中央訪問看護リハビリステーションという場所で地域のOTとして活動する予定です。好奇心旺盛な性分で迷走しつつも、少しずつやりたいことに着手している過程にあります。その1つであるOT組織の一員として貢献できるよう、ブロック活動に尽力して参りますので、よろしくお願いいたします。

最後に6月に生涯教育制度を詳しく説明する研修を予定しております。是非御参加をお待ちしております。

区東部・東北部ブロック

中谷 美季

2月24日（金）に東邦大学看護学部の原 三紀子先生をお招きし、『コミュニケーション基本のキ～明日からの臨床に活かす・聞く・伝える・通い合う～』という研修を開催しました。勤務の後のお疲れの時間帯ではありましたが、20名もの方がご参加くださいました。患者さんや利用者さん、そのご家族とのコミュニケーションは勿論、同僚や上司、他職種とのコミュニケーションの取り方に、悩んだり、難しさを感じている人は多いんじゃないかな、という思いから始まった企画です。アンケートでは、話し方だけではなく、聞く大切さを感じている方が多くいらっしゃったのが印象的です。

都士会や協会、様々なところで研修が開催され、OTとしての研鑽に努めておりますが、ブロックで開催する研修は、より身近な悩み、困りごとが解決する、一緒に考えてくれる仲間が出来る、そんなことを目指しております。今後も色々な企画を考えておりますので、是非、覗いてみて下さい。

区中央部・南部・島しょブロック**山本 司**

区中央・南部・島しょブロックは、港区、千代田区、文京区、台東区、中央区、品川区、大田区、島しょ部のOTがブロック運営をしております。私もブロックの活動を始めて数年が経ちましたが、他のOTと話すことができる環境はとてありがたく、他施設を知ることは職場では学べないことを勉強させてもらっております。当ブロックでは今後も臨床に活かせるような研修会を計画しており、一緒にブロック活動を行ってくれる方を募集しております。興味のある方はku.chuou.nanbu.ot@gmail.comまでご連絡いただければ幸いです。

また、区中央南部島しょブロックは7月に開催される第19回東京都作業療法学会に向けて準備を進めております。東京都作業療法学会は、2019年以降オンライン開催となっておりますが、「face to face」～作業で結ぶ東京の未来～というテーマのとおり、4年ぶりに対面開催を予定しております。「みんなで創る学会」として会員の皆様にご協力いただいたアンケートを基に、様々な面白い企画、臨床で活かせる企画を予定しております！7月2日（日）はぜひ御茶ノ水の順天堂大学で集まりましょう！皆様のご参加をお待ちしております。※会場の小川講堂もものすごく素敵で来る価値あります！

北多摩ブロック**原田 祐輔**

北多摩ブロックでは4月度より新規メンバーを迎え、新たなスタートを切っております。

今年度も昨年度に引き続き「近隣の作業療法士との交流」が図れるよう、座談会「ツドイノバ」（4回）と勉強会（2回）を予定しています。開催方式は、どなたでもご参加いただけるよう「オンライン開催」を基本として考えております。ご興味のある方はお気軽にご参加ください。また、2023年度もこの都士会ニュース（北多摩ブロック）記事は、ブロック委員がリレー方式に執筆させていただきます。様々な視点から北多摩ブロックの魅力が伝えられるように取り組んでいきたいと思っております。

引き続き、北多摩ブロックでは一緒に活動して下さる方を募集しています。領域や経験年数も様々でフレンドリーな作業療法士ばかりです。少しでも興味のある方は連絡ください！ → ot.kitatama@gmail.com
今年度もよろしくお願ひ申し上げます。

西多摩・南多摩ブロック**今泉 幸子**

当ブロックでは、今年度の活動として、地域で主体的に活動している当事者の活動とそれに関わるOTの活動を知るような研修会と認知症アップデート研修を予定しております。まだ対面での企画ができるかどうかは検討中ですが、以前当ブロックでは恒例となっていた「大懇親会」のような、近隣のOTが知り合えるような企画ができたらいいなあとも考えております。まずはブロック運営メンバーが対面したい！ということで、運営会議を10回のうち2回は対面を予定しています。

ブロックメンバー大募集中！ご興味のある方はお気軽にご連絡ください。 → swtamaot@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

事業部活動報告

医療法人財団健貢会 総合東京病院 作業療法士 岡田 泰裕

2023年3月23日に事業部主催研修「自身・部下・同僚のメンタルヘルスマネジメントのヒント」をオンライン開催しました。今回の研修では、東京都立荏原病院 臨床心理士・公認心理士のト部葉子先生と三軒茶屋診療所東京リワークセンター 作業療法士の佐藤俊之先生の2名をお招きし職場のメンタルヘルスマネジメントや身近なメンタルヘルスに関する課題について講義頂きました。当日は41名に参加して頂き、日頃より苦難しているメンタルヘルスマネジメントについて意見交換の場となりました。

ト部葉子先生による「ラインケアの基本」では、ラインケアの基礎知識から実践で利用できるメンタルヘルスマネジメント方法について理解を深める事が出来ました。佐藤俊之先生による「復職支援の実践から」では、復職に携わっている現場目線での作業療法やメンタルヘルスマネジメント方法について説明して頂き、職場での課題や気づきを多く頂きました。

最後には質疑応答の場を設け、事前に募集したメンタルヘルスマネジメントの悩みにそれぞれの立場から回答頂きました。“職場での立場の違いによるストレスマネジメントはどうすれば良いか”や“休職した同僚の支援方法はどのようにするのが良いか”等の職場環境やコロナ渦によって、多くの作業療法士の方がメンタルヘルスマネジメントについて悩んでいるのがわかりました。

今回の研修で違う職場の作業療法士と悩みを共有し解決方法のヒントを頂き、貴重な体験をさせて頂きました。今後も事業部の活動を通して作業療法士の啓発活動や福利厚生の実践に努めていきたいと思っております。

編集後記

東京都作業療法士会広報部の活動を今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。新会員の皆さん、新生活はいかがですか。新社会人の方は4月からの緊張の連続の日々から、そろそろ慣れてきた頃でしょうか。目の前のことをこなすことで精いっぱいかもしれませんが、日々の臨床、その他の業務の中で疑問を持ち、それを解決して成長していくことに楽しさを覚えたら、どんな仕事でも成功できると思います。勉強会やその他ブロック活動の交流の場など、このニュースを通して、仲間を見つけて作業療法の世界が広がっていくお手伝いができれば幸いです。7月2日には第19回東京都作業療法学会があります。なかなか行くことのできない順天堂大学に行くチャンスでもあるので、私も楽しみです。

東京都作業療法士会広報部部長 水口寛子

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL : 03-6380-4681 FAX : 03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。